

鵬友 50 周年に寄せて

航空支援集団司令官

空将 織田邦男

「自衛官の心構え」には「個人の充実」の項目があります。解説には次のように述べられています。

「組織の根本は人である。高い水準の社会が個人の教養と節度がなければ維持できないように、すぐれた防衛の組織はそれにふさわしい各人の精神と能力がなければ存立しえない。このような精神と能力は、本来各人の自発と努力に基づく不断の修練により到達し得るところのものである」

自衛隊に奉職して三十有余年、一般社会の厳しい雇用環境と見比べる時、自衛隊という組織は本当に良い組織だな…とつくづく思うことがあります。

人を弊履の如く使い捨てる組織は数多あります。つまり「個人の能力発揮」、「能力の放電」を求める組織は多々あります。しかしながら、「自己への投資」、「能力の充電」を個人に求める組織はおそらく自衛隊くらいではないでしょうか。

ですが、これに甘えてはいけません。「個人の充実」は一人一人の「自衛官の心構え」であり、言わば責務です。実は非常に厳しいことが求められている組織なのです。「各人の自発と努力に基づく不断の修練」を怠れば、それは職務怠慢の誹りを受けてもやむを得ません。給料を貰う資格がないと言っても過言ではないでしょう。

特に自衛隊の中核をなす幹部については、十分に自覚する必要があります。連綿不断の自己研鑽は個人の趣味でもなければ、ボランティア活動でもありません。幹部にとっての職務そのものであり、本来の

任務遂行と同程度の重みがあるものなのです。航空自衛隊の現状はどうでしょうか。今一度、原点に立ち返ってみる必要があります。

「読書は人を豊かにし、書くことは人を確かにし、議論は人を機敏にする」と言われます。自己研鑽の基本はこれだと思っています。「読書もせず、物も書かず、議論もせず」こんな自衛隊に将来はありません。自衛隊の将来は日本の未来に繋がっているのです。日本の未来のため、我々幹部自衛官は連綿不断の自己研鑽が強く求められているのです。

小生、浅学非才の身を顧みず、これまで 10 回にわたり「鵬友」に投稿してきました。今回、鵬友 50 周年に寄せて何か書けと編集室から宿題を頂き、「私の教育論」と題して日頃の考え方を整理し、まとめてみました。

これら投稿の動機は勿論、自分の考え方、得た教訓等を若い幹部に伝えたいという思いもありますが、「書く」という自己研鑽の為でもありました。自分に「書く」という課題を課したことは、自衛隊生活を振り返ってみて、「個人の充実」に大変役立ったと思っています。

「鵬友」は、良い自己研鑽の場を提供してくれています。幹部の切磋琢磨の場として、自己研鑽の場として、初級幹部から将官を問わず、我々幹部自衛官はもっと「鵬友」を活用すべきだと思います。「鵬友」のみならず、部外の機関雑誌等へ投稿して、自分の考えを世に問えるようになれば、これに過ぎることはありません。他流試合の前の紅白戦のように位置づけ、恥をかける場として、失敗を恐れず、輕易にもっと活用すべきだと思います。老兵として若い諸官の奮起を期待しております。

今後ともこの「鵬友」が幹部の自学研鑽の起爆剤として、益々活性化し、充実したものとなることを切に望んでやみません。